

県立中井やまゆり園から報告

「強度行動障害」というレッテルへの、謝罪

当事者として、同じ方向を見て

人となりを知る、暮らしをゆたかにする

温もり、幸福感を得ていく

社会福祉法人 同愛会 てらん広場

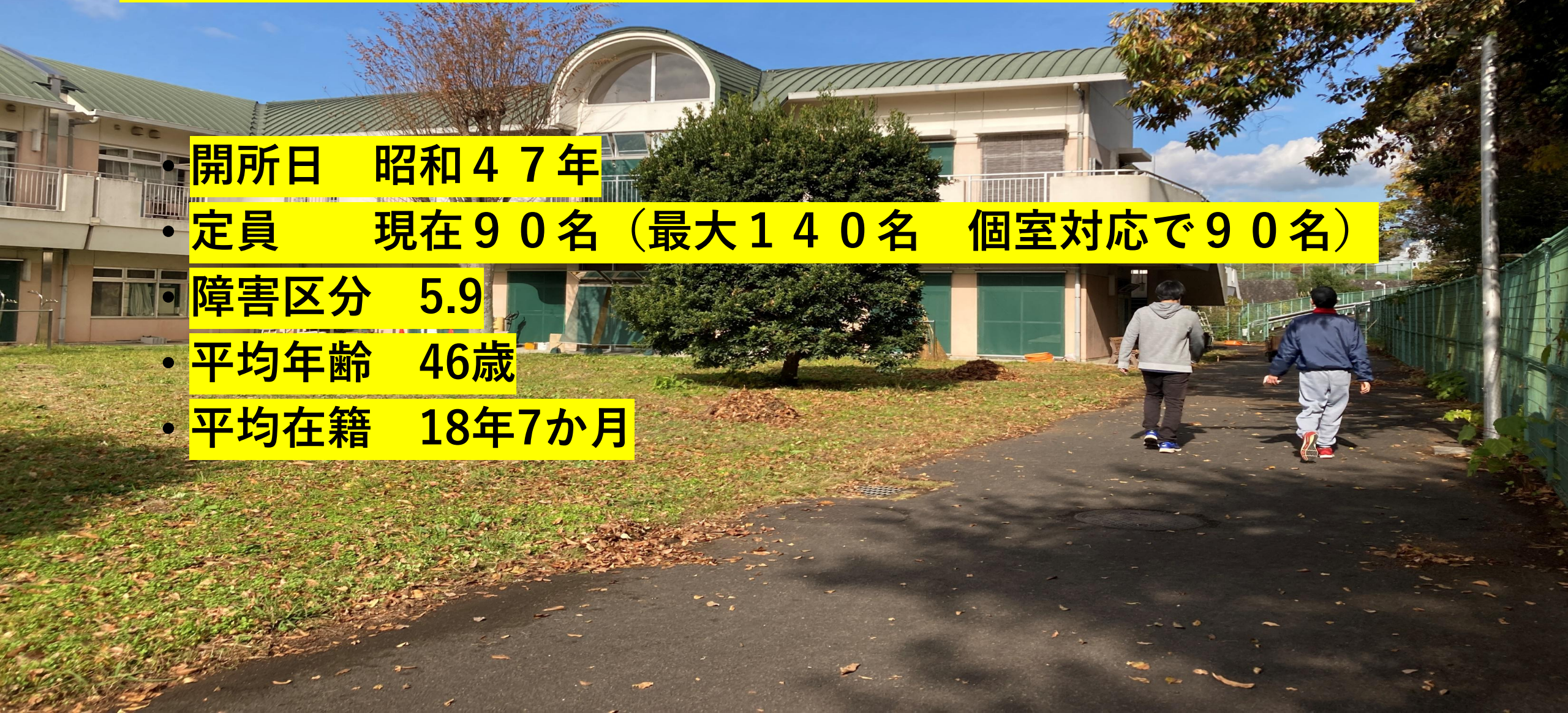
大川 貴志

はじめに

- 「津久井やまゆり園事件」後に発足した「利用者支援検証会」で、様々な虐待の疑いが指摘されました。
それだけでなく、他の県立施設について、不適切な行為が報告されました。
- 神奈川県は、自ら運営する「中井やまゆり園」での不適切な行為について
2021年、外部調査委員会を発足させ、「虐待」と疑われる25件を市町村に通報。
2022年、「中井やまゆり園改革プロジェクト」を発足させ
2023年5月に改革プログラムを作成しました。
- 改革プロジェクトのメンバーとして、
中井やまゆり園の過去、現在をご報告します。

中井やまゆり園で、暮らしていた人たち

- 開所日 昭和47年
- 定員 現在90名（最大140名 個室対応で90名）
- 障害区分 5.9
- 平均年齢 46歳
- 平均在籍 18年7か月



中井やまゆり園が、ある場所

中井やまゆり園



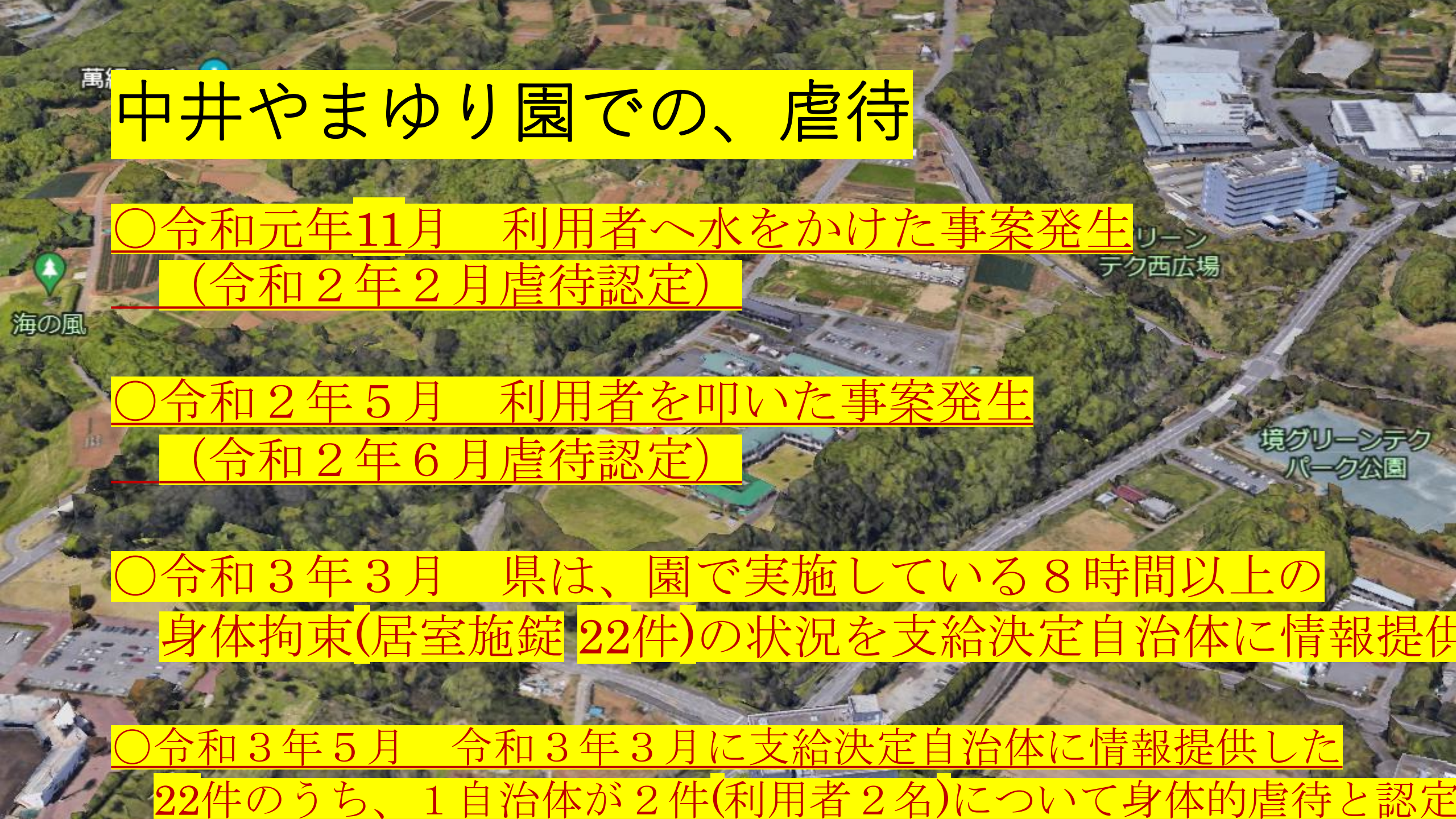
グリーン
テク西広場

境グリーンテク
パーク公園

神奈川県直営の障害者支援施設

神奈川県足柄上郡中井町境 2 1 8

箱根に近い県西部



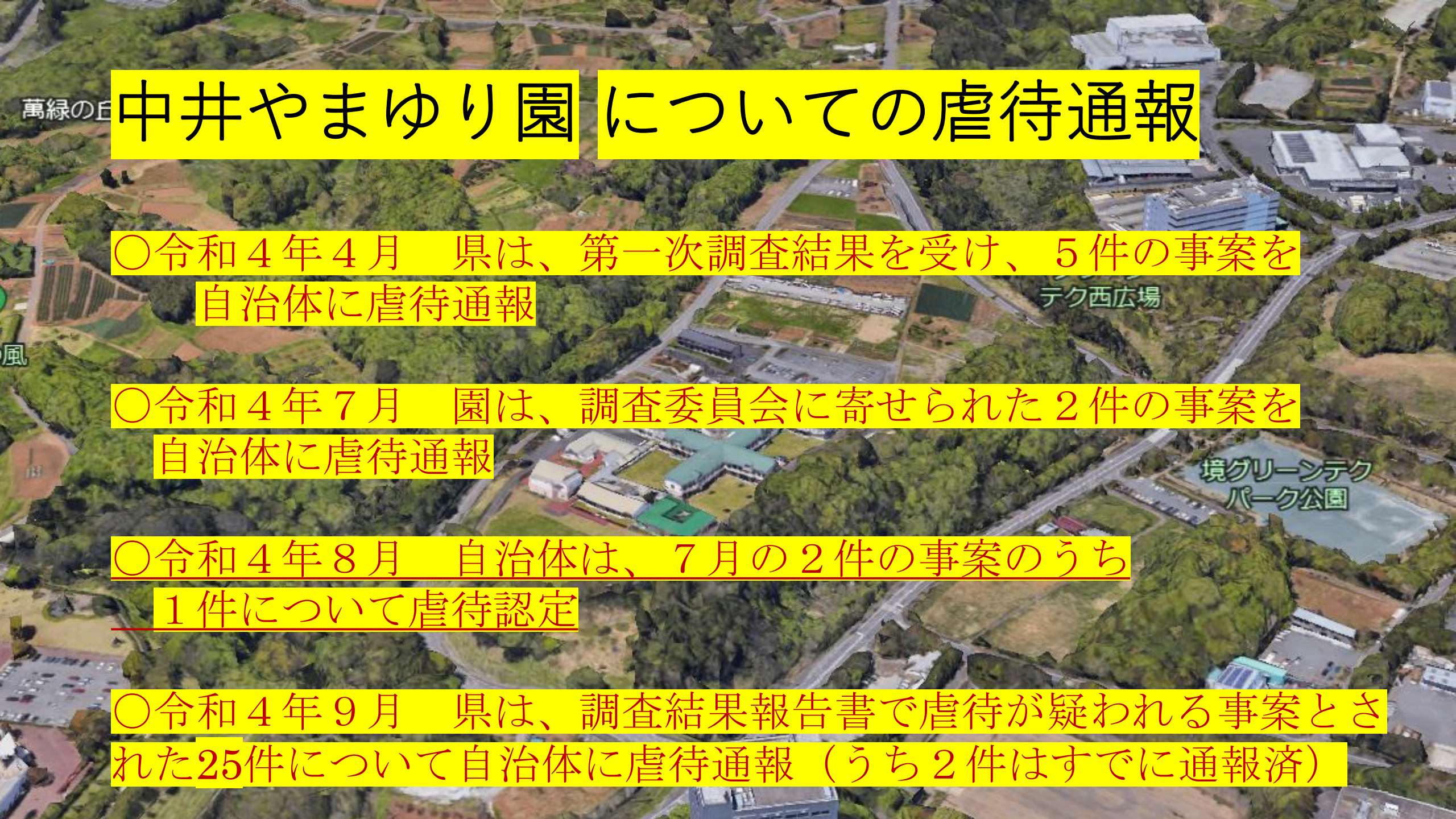
中井やまゆり園での、虐待

○令和元年11月 利用者へ水をかけた事案発生
(令和2年2月虐待認定)

○令和2年5月 利用者を叩いた事案発生
(令和2年6月虐待認定)

○令和3年3月 県は、園で実施している8時間以上の
身体拘束(居室施設 22件)の状況を支給決定自治体に情報提供

○令和3年5月 令和3年3月に支給決定自治体に情報提供した
22件のうち、1自治体が2件(利用者2名)について身体的虐待と認定



中井やまゆり園 についての虐待通報

○令和4年4月 県は、第一次調査結果を受け、5件の事案を
自治体に虐待通報

○令和4年7月 園は、調査委員会に寄せられた2件の事案を
自治体に虐待通報

○令和4年8月 自治体は、7月の2件の事案のうち
1件について虐待認定

○令和4年9月 県は、調査結果報告書で虐待が疑われる事案とされ
た25件について自治体に虐待通報（うち2件はすでに通報済）

中井やまゆり園とは、何だったのか？





「刺激」を
排除した空間



- ・廊下にも庭にも人けがなく、
利用者の姿が見えない
- ・モニターで居室を監視して
いる寮も
- ・見学時、刺激にならないよ
うにパーテーションが用意
されていた



失われた 「暮らし」

・破壊を防ぐため固定された家具



・便座やドアのないトイレ

・封鎖された洗面台



孤立する 利用者

- 真っ暗な部屋
 - 便が天井にこびりついた部屋
 - 何も物がない部屋...
- で長時間居室施設
- 日中活動(やること)がない



中井やまゆり園の変遷 昭和～2011年(平成23年)まで

和暦	国の政策	県の施策	中井やまゆり園の取組など
昭和	(S33) ・社会福祉事業法（措置制度） (S63) ・強度行動障害の概念が誕生		(S47) ・精神薄弱者援護施設として開設 定員150名
平成	(H5～H10) ・強度行動障特別処遇加算事業 (H10～) ・強度行動障特別処遇加算費 (H13) ・特殊法人等整理合理化計画 国立のぞみの園を、重度知的障害者のモデル的な処遇を行う施設と明確に位置付け、独立行政法人化を閣議決定 (H15) ・国立のぞみの園、独立行政法人化 ・社会福祉法(支援費制度) (H18) ・障害者自立支援法 (H22) ・児童福祉法の改正（過齢児の移行が明確化）⇒平成24年施行	(H9) ・強度行動障害対策事業開始 ・専門職員の育成 (H14) ・強度行動障害特別処遇加算費実施要綱により特別処遇事業を実施 (H15) ・将来展望会議 ⇒県立施設に指定管理者制度の導入の方針 (H17) ・津久井やまゆり園指定管理導入 (H18) ・愛名やまゆり園、厚木精華園、秦野精華園指定管理導入 (H23) ・三浦しらとり園指定管理導入 ・金沢若草園民間移譲	(H8) ・定員変更 150名→100名 （再整備のため利用者を民間施設等へ移行） (H9～H14) ・再整備： 強度行動障害対策の中核施設として、重度重複知的障害者を中心に、多様化した施設 ⇒強度行動障害専用棟(泉寮)の整備(H14) <主な特徴> ・一般棟と離れた配置、シンプルで頑丈な構造 ・北側塀による知覚刺激、聴覚刺激の遮断 ・衝撃に強いドア、遮音・気密性の高い居室 ・集音感知システム、モニターカメラ <当時の考え> ・泉寮が建設される前は、海寮で強度行動障害の人たちを支援していた時のことを考えると、支援内容や支援の容易さに決定的な違い ・ハードはソフトを補完する （当時の記録より）

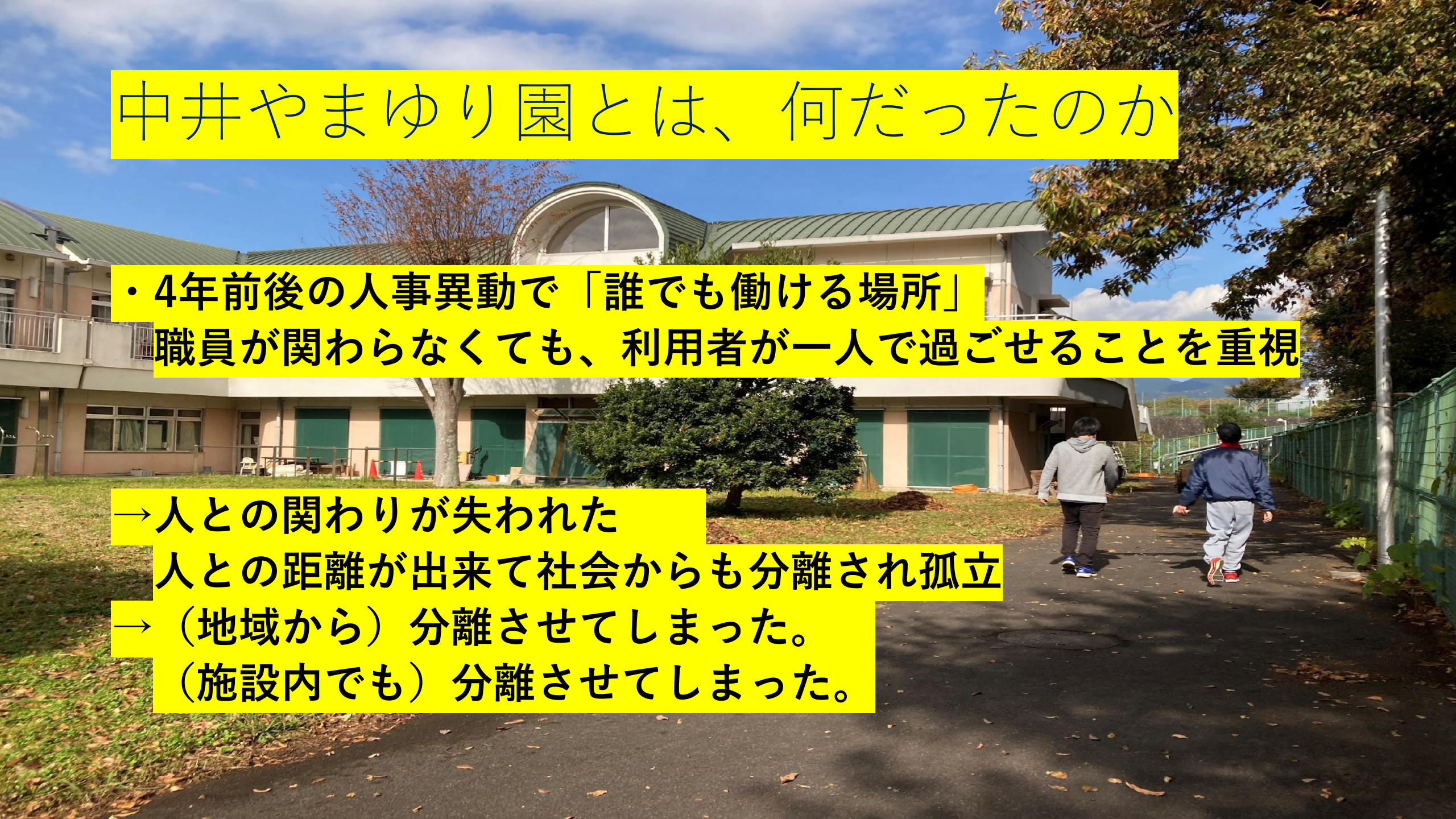
中井やまゆり園の変遷 2011年（平成23年）以降

和暦	国の政策	県の施策	中井やまゆり園の取組など
平成	(H25) ・ 障害者総合支援法 ・ 強度行動障害支援者養成研修(基礎)開始 (H26) ・ 強度行動障害支援者養成研修(実践)開始 (H27) ・ 重度障害者支援加算(施設入所支援等)を創設 (H30) ・ 重度障害者支援加算(生活介護等)を創設 (R1) ・ 児童福祉法改正（児童福祉司の配置基準が明確化）	(H25) ・ 県立障がい福祉施設等あり方検討委員会 ⇒中井やまゆり園は民間で特に対応が難しい障がい者の最終的な受入先 (H27) ・ 過齢児が解消されない状況を踏まえ、過齢児等移行調整会議を実施	(H23) <事業報告より> ・ 地域生活移行に関しては事業対象期間の3年で行動障害の軽減が図れない利用者が多いことと、行動障害の点数が下がってきているものの、一人ひとりに特別な環境が必要な状況にある利用者がほとんどであるため進んでいません。 (H27～R1) ・ 過齢児等、新規入所者数の増加 (R1.11) ・ 利用者に水をかけた虐待事案発生（山寮） (R2.5) ・ 利用者をたたいた虐待事案発生（海寮） (R3.5) ・ 長時間居室施設が虐待認定（泉寮・秋寮） (R4.9) ・ 匿名アンケート等により把握した事実だとすれば不適切な支援の情報について、外部調査委員会による検証の結果、虐待が疑われる事案25件を通報

中井やまゆり園とは、何だったのか

- ・ 4年前後の人事異動で「誰でも働ける場所」
職員が関わらなくても、利用者が一人で過ごせることを重視

- 人との関わりが失われた
人との距離が出来て社会からも分離され孤立
- （地域から）分離させてしまった。
（施設内でも）分離させてしまった。



中井やまゆり園は、何だったのか

・施設に（“行動障害”というレッテルを貼った人を）集めて
障害特性のみに対して
振り返りなく集中療育を実施して問題行動が起きなければ良しとした。

そして、“行き場”のない人たちを受け入れる事で役割を全うしている

何よりも「強度行動障害の点数」が下がることを正義とした

→暮らしを歪め、生きづらさを強めて
「何も出来ない人達」のように感じさせてしまった。

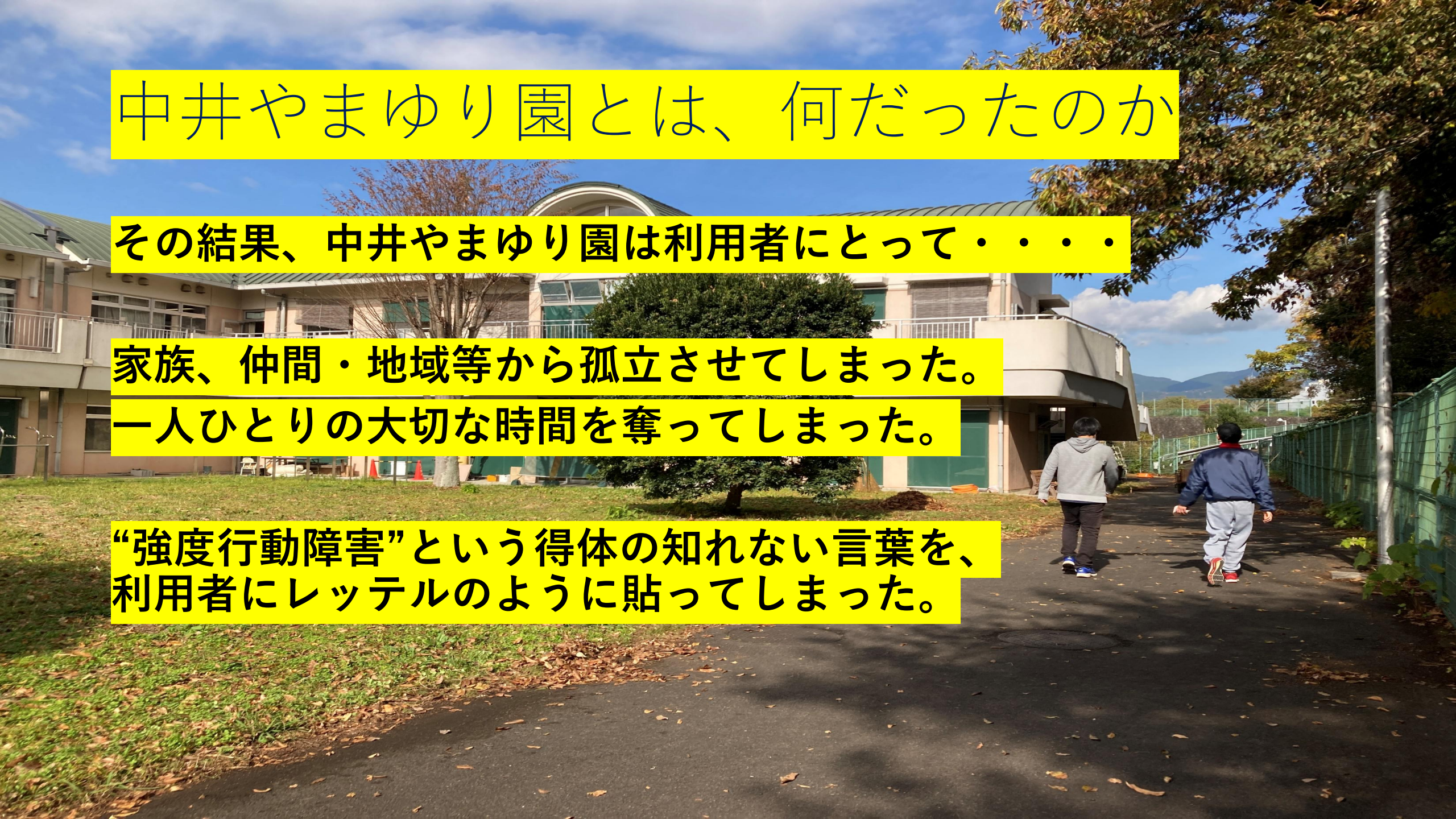
中井やまゆり園とは、何だったのか

その結果、中井やまゆり園は利用者にとって・・・

家族、仲間・地域等から孤立させてしまった。

一人ひとりの大切な時間を奪ってしまった。

“強度行動障害”という得体の知れない言葉を、
利用者にレッテルのように貼ってしまった。



中井やまゆり園とは、何だったのか

居室施設、身体拘束、“行動障害”のみに着目した結果、何もしない生活を繰り返し、健康を損ない、加齢以上に極端な心身の機能低下を招いている。

歩くと危ないから・・・車椅子
対応困難・・・薬のみに頼る

結果・・・

- ・言語を失い、歩けなくなり、嚥下の力を失い、視力を失い、意欲を失い・・・

車いすでミキサー食になり誤嚥性肺炎を繰り返す人生へ

中井やまゆり園とは、何だったのか

短期的な人事異動を繰り返す中で、急激な機能低下をしてしまった利用者の変化を追えずに、機能低下した利用者に対しての疑問が生じない→対処療法的になり、機能低下を加速させてしまう

利用者の長い歴史を紡がれていない

何故、この服薬をしているのか、どんな行動、状態に対して処方されたのかを理解が出来ていないため薬も継ぎ足しになっている。また必要な検査に対しても消極的であることで、辛い人生に追い込んでしまっている。

中井やまゆり園が、変えたこと

園として

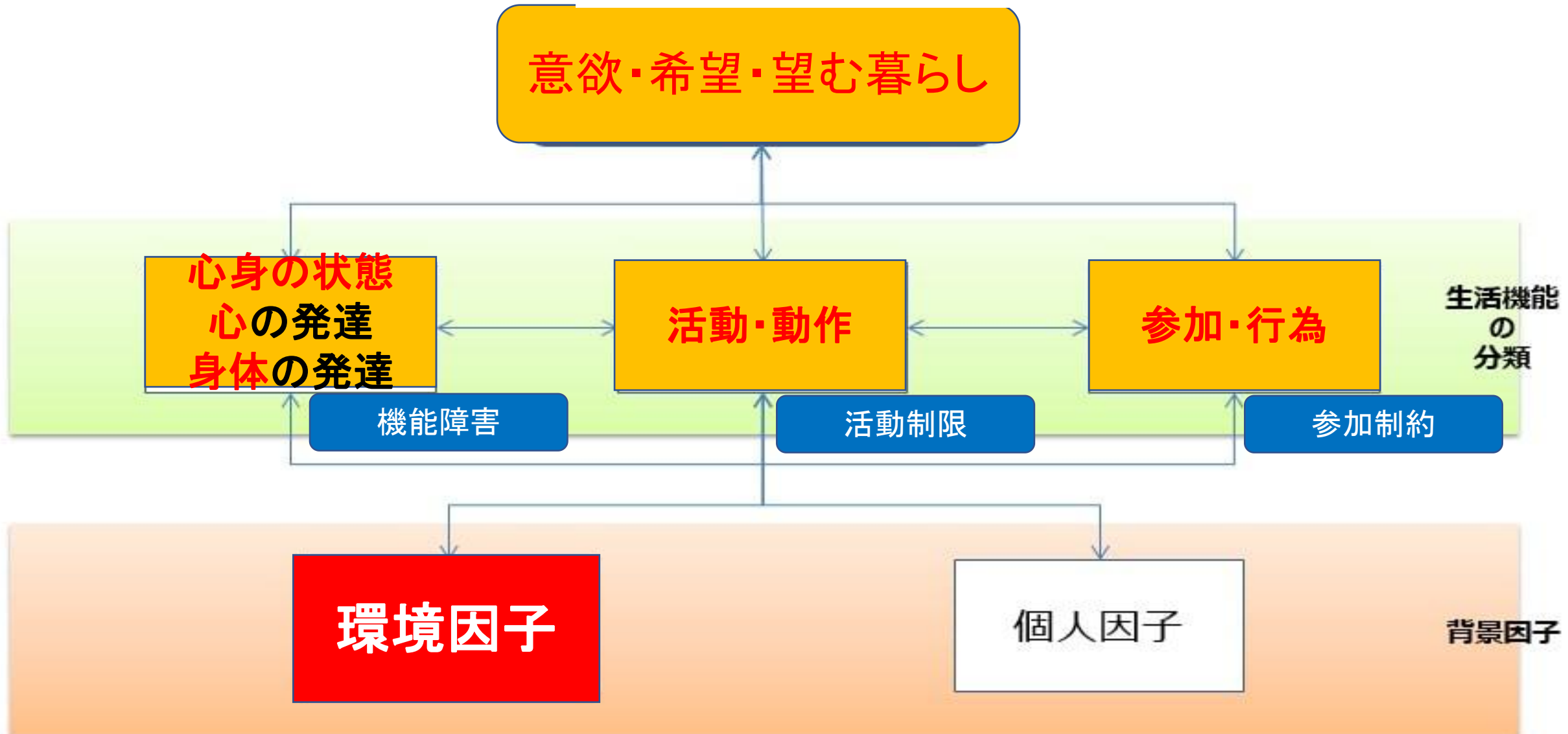
支援方法の改善方法ではなく

利用者の暮らしを豊かにする（暮らしの改善）

具体的には・・・

居室施錠を解き、一緒に活動を行った・・・

＜アセスメント＞



ICFとは「医療モデル」「社会モデル」の統合、生きる事の全体像、各種サービス間の「共通言語」
を強度行動障害と呼ばれる方に当てはめた

日中活動をやってみて・・・

・居室施設されている利用者とは違った姿との出会いと発見、そして、迷い

・利用者へ心からの謝罪したい気持ちへ・・・

*** この仕事は新たな出会い・発見をなくすと不適切な支援へ傾倒する**

誰でも出来る場所＝考えない・~~判断しない~~・~~迷わない~~ではない。

誰でも自由な発想を持ち・決断できる・迷い・悩める場所が誰でも働ける場所

なぜ、変わりつつあるのか

障害の特性・問題行動を見るのではなく

人となりを知る

「自閉症児を特別なものとして見ることをやめたとき、
彼らが良く見えてくる」

十亀史郎氏（三重県立総合療育施設「あすなる学園」）の言葉

なぜ、変わりつつあるのか

利用者と職員が同じ方向を見る

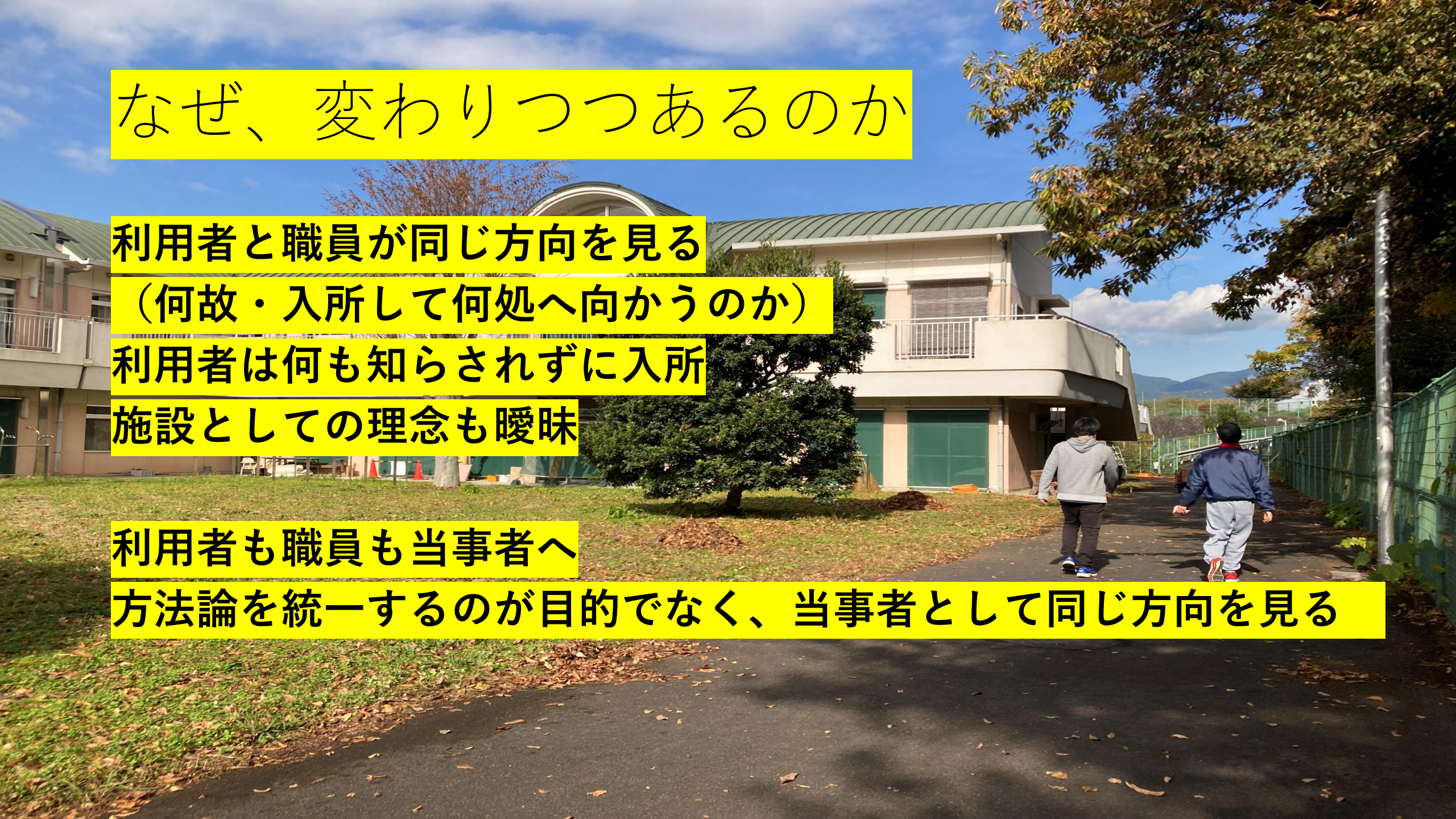
（何故・入所して何処へ向かうのか）

利用者は何も知らされずに入所

施設としての理念も曖昧

利用者も職員も当事者へ

方法論を統一するのが目的でなく、当事者として同じ方向を見る



更に目指すこと・・・

利用者が（幸せそうに）変わるということ

→ **自分が変わる**こと

→ **支援する・されるでなく双方向**

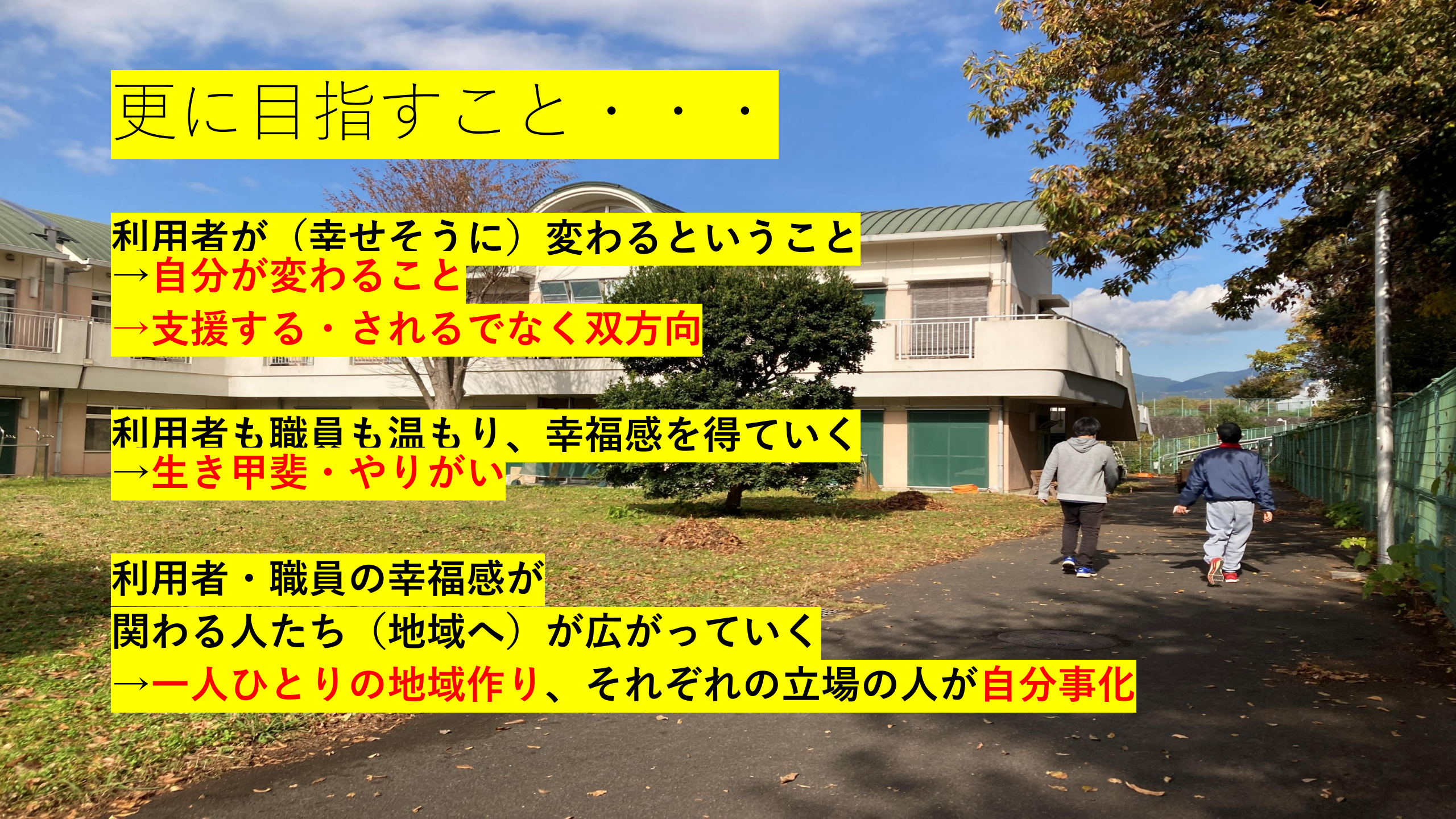
利用者も職員も温もり、幸福感を得ていく

→ **生き甲斐・やりがい**

利用者・職員の幸福感が

関わる人たち（地域へ）が広がっていく

→ **一人ひとりの地域作り、それぞれの立場の人が自分事化**



終わりに

・私たちは県立施設の在り方・中井やまゆりの改革・入所施設の是非を先に語るのではなく、利用者一人ひとりの人生が在るという事を何よりも大切に考え一人ひとりの豊かな暮らしと一緒に創り、人間の幸せをお互いに感じられ味わえるような時間を生み出そうとしている。

・一人ひとりの利用者が再び大切な人や仲間と暮らせていけるように望みや願い、痛みや辛さ、悔しさを利用者の身体と重ね合わすような姿勢で一緒に考えて戴きたい。

・入所施設の中で生じている小さな声、声なき声を拾い集めて一隅を照らすような（社会全体へ広がる）実践をした内容を発信していく。